

Amata Trilogy

これまでの作品について

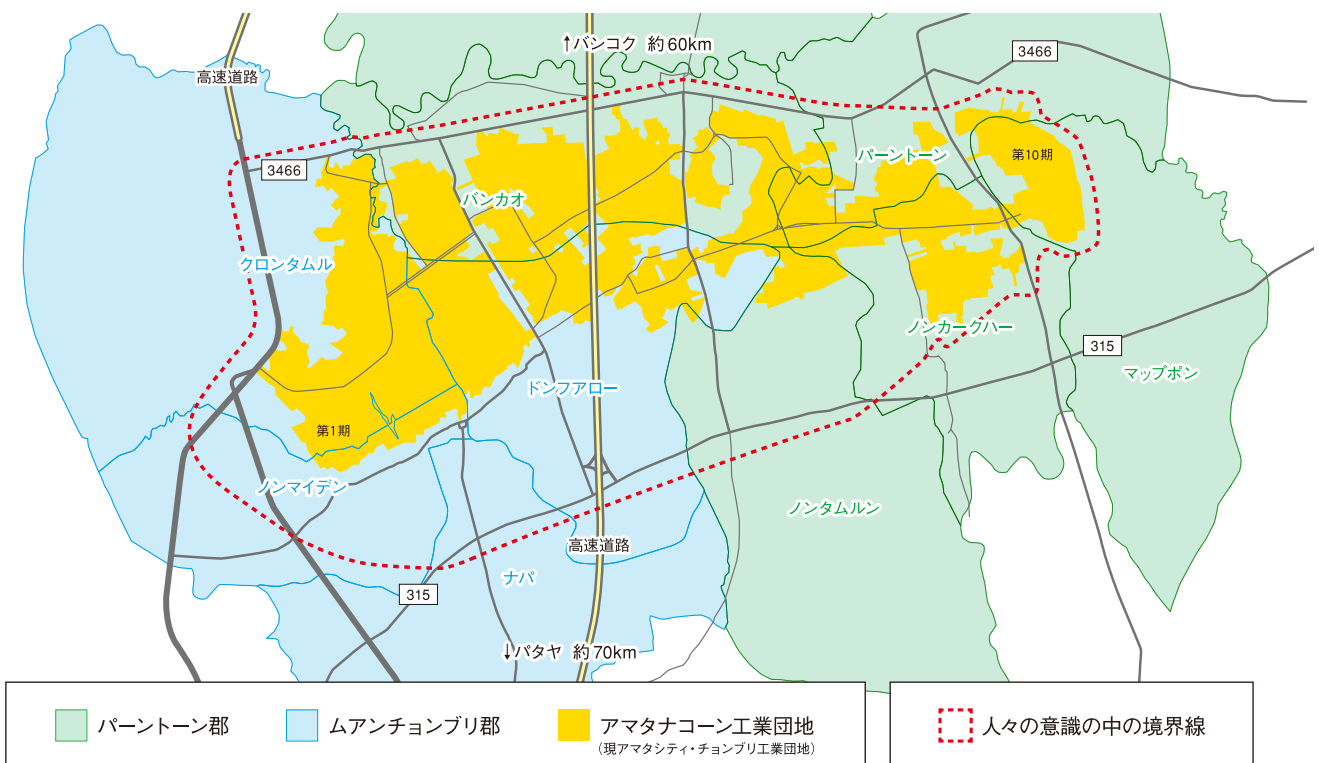
タイ王国の、アマタナコーンと呼ばれる町で撮影を続けています。1989年に工業団地が設立されたことで、それまで荒野だった場所に町が発生し、工業団地の拡大とともに発展を続けています。ですが、この町は行政区分上は存在せず、人々の意識の中に存在する町です(地図参照)。行政区分上は「ない」が、人々の意識のなかに「ある」町だということに興味を持ちました。

まず初めにランドスケープの撮影を始めました。“Discipline and Nature”では、「人工と自然」「現代と前時代」「人と物」といったレイヤーがそこには立ち現れています。何度も同じ場所へ通うことで(年単位で)その場所を観察することも大切にしています。

次に、この町の人々を、彼らのプライベートルームで撮影するプロジェクトを始めました。“Faces of Amata Nakorn, the ‘Eternal City’”では、現地に行って、人々に「あなたはどこに住んでいますか?」と尋ねて「アマタナコーンです。」と答えた人を撮影しています。彼らとそのプライベートルームに露出する「らしさ」は、この町の「らしさ」であり、現代タイの一端とも言えるでしょう。

地図補足

黄色で塗りつぶされている部分がアマタナコーン工業団地です。これは現実に存在する工業団地で、区画や境界もきちんと決められているものです。その外側の赤色の点線が人々が「ここはアマタナコーンだ」と呼ぶ範囲(これまでの撮影・取材に基づく私の予想線)で、これは現実には存在していません。



応募理由

アマタナコーンという町は、行政区分上は「ない」が人々の意識のなかに「ある」町です。その境界線を可視化するプロジェクトを計画しています。

現在考えている具体的なプラン

現地で人々に「ここはアマタナコーンですか?」と尋ね、Yes/No を得る。どちらの場合にも、最寄りの境界線についても尋ね、場所を記録する

撮影は、回答者のポートレート(背景は白背景など意味を持たないものを選択)と、ランドスケープを予定

回答者の職業や社会的状況があらわれと思われるグッズなどをセットアップ撮影

アマタナコーンを題材とした上記のあらたなプロジェクトの制作のため、応募いたしました。私がこの町で撮影を続ける最も大きなきっかけとなった〈人々の意識の中にある町とその境界線〉をテーマとしたプロジェクトです。